

環境マネジメント実務関係教育課程ガイドライン

21. 4. 1 制 定

本協会における環境マネジメント実務関係の資格認定を受けようとする場合は、「環境マネジメント実務士資格認定に関する規程」及び「上級環境マネジメント実務士資格認定に関する規程」をもとに教育課程を編成すること。さらに詳しい授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。なお、読替科目は（ ）で示した。例示科目、読替科目以外の環境マネジメント実務教育関連科目を選択科目としてあてる場合は、本協会資格教育課程審査常任委員会の承認を得なければならない。

教育目標

持続可能な社会の実現に向けて、企業および個人が広い視野を持ち環境問題に取り組むことのできる人材の育成を目標とする。このためには、単なる実践力および技術力の習得のみに限らず、その技術を支える基礎力の充実をはかり、時代の変化に対応できる人材の育成をおこなう。

I. 必修科目

環境科学

グローバルスケールの問題からローカルスケールの問題に至るまで、環境を人と自然の相互作用の視点に立ち、科学的にその概要を学ぶ。

- ① 人と自然
- ② エコシステム
- ③ 大気環境
- ④ 水環境
- ⑤ 地球環境と社会

(地球環境科学、環境システム科学、生活環境科学 など)

資源循環論 (環境マネジメント実務士は除く)

循環型社会を実現するための環境政策、企業における環境対策の現状と課題について学ぶ。

- ① 循環型社会の現状
- ② 持続可能な社会
- ③ 再生可能資源と枯渇性資源
- ④ リサイクル
- ⑤ 自治体・企業の取り組み

(循環型社会システム論、環境産業論、生活環境デザイン論 など)

環境マネジメント論

持続的循環型社会を実現するために、自治体や企業、個人に求められるマネジメントについて体系的に学ぶ。

- ① 環境マネジメントの基本的概念
- ② 環境マネジメントの法律・行政知識
- ③ 環境マネジメントの経済・経営知識
- ④ 企業・自治体における環境マネジメントの現状と今後の課題
- ⑤ 環境マネジメントの国際情勢

(環境経営論、経営資源論、生活環境経済論 など)

環境モニタリング論 (環境マネジメント実務士は除く)

環境への影響評価のためのさまざまな物理的・化学的計測技術の習得、および計測結果の整理、分析から将来予測まで、その意義と限界を体系的に学習する。

- ① 物理計測
 - ② 化学分析
 - ③ データの整理、分析
 - ④ 生態観察
 - ⑤ 統計処理
- (環境調査論、環境調査分析論、環境計測論、環境アセスメント論など)

II. 選択科目

I 群 「環境科学」関連分野

環境問題を科学的に分析する手法や体系的に考えることのできる基礎能力を養うと共に、人と環境との相互作用について考える。

地球環境論

地球規模で発生している環境問題に焦点をあて、経済活動に伴う各種の環境側面と環境影響について学習する。

- ① 環境と法、環境と経済
- ② 地球環境モデル
- ③ 環境と化学物質
- ④ 生態環境と人々の暮らし
- ⑤ 世界の環境問題

(環境生態論、生態学、海洋学、気象学 など)

循環システム論

水循環システムや生命圏循環システムから広範な物質循環システムやエネルギー循環システムに至るまで、物理法則に基づいて体系的に学ぶ。

- ① 水循環システム
- ② エネルギー循環システム
- ③ 生命圏循環システム
- ④ 物質循環システム
- ⑤ 地球システム

(物質循環システム科学、水科学、エネルギー科学 など)

自然人類学

人を生物の一種として捉え、現在の研究で解明されている起源と進化を探ると同時に、人が環境に及ぼす影響について考察する。

- ① 人類の進化と地球環境
- ② 火の発見と環境
- ③ 道具の開発と環境
- ④ 農耕・牧畜の開発と環境
- ⑤ 生活様式と環境

(文化人類学、人類学、食環境論、食物論、食文化史、衣環境論、被服文化史、住環境論、住文化論 など)

II 群 「環境応用科学」関連分野

さまざまな環境問題に取り組むにあたって、広い視野に立った実践的な知識およびその知識を生かした問題解決能力を養う。

資源論

安定した地球資源の供給が現代社会の諸活動を支えている現状と、その大量の資源消費が地球規模での環境問題のみならず、資源枯渇の主たる要因となりつつあることを学ぶ。

- ① 水資源
- ② エネルギー資源
- ③ 食料資源

④ 資源消費と環境

⑤ 資源枯渇問題

(環境資源論、食料資源論、水資源論、エネルギー資源論、資源循環型生産論 など)

環境保全論

環境問題を引き起こす原因を考え、現在の技術的解決手法を学ぶ。さらに、地球システムの概念を導入し持続可能な社会の実現を考える。

① 地球環境問題と科学技術の進歩

② 地球環境問題への取り組みの現状

③ 人と地球環境との相互作用

④ 地球システム

⑤ 持続可能な社会システムの構築

(自然保護論、環境破壊論、地球温暖化論、森林破壊論、都市環境保存論 など)

生活環境エネルギー論

地球規模の環境問題から日々の環境問題とエネルギーとの関連について学び、さらに、エネルギーの有効利用の現状と将来性について学ぶ。

① 環境とエネルギー

② 経済とエネルギー

③ 自然エネルギー

④ エネルギーのリサイクル

⑤ 省エネルギーの実際と今後

(生活環境論、食生活論・食品管理論、衣生活論・衣料リサイクル論、住生活論 など)

Ⅲ群 「環境法・経済・政策」関連分野

環境に関する法律・経済・政策の基礎知識を習得し、地球環境を保全しつつ経済発展を続けるための方法について学ぶ。

環境政策論

自治体における環境政策と、企業における環境対策について体系的に学ぶ。

① 環境政策の基本的概念

② 環境法・経済知識

③ 自治体における環境政策の現状と今後の課題

④ 環境政策と地域活性化

⑤ 環境政策の国際情勢

(環境関連法規、環境行政論、産業公害論、地域活動論、都市環境論、地域自治論、都市行政論、建築行政論 など)

環境NGO・NPO論

環境保全活動におけるNGO・NPOが抱える問題点とその解決手法、および将来の可能性について総合的に学ぶ。

① 環境NGO・NPOの役割

② 環境NGO・NPOの現状と今後の課題

③ 環境NGO・NPOと自治体との連携

④ 環境NGO・NPOの担い手の育成

⑤ 環境NGO・NPOの国際情勢

(NGO・NPO活動論、環境教育論、環境コミュニケーション論、食環境教育論、衣環境教育論、消費者教育論 など)

環境マーケティング論

企業が取り組む環境マーケティングが抱える問題点とその解決方法について、体系的に学ぶ。

① 環境ビジネスの基本的概念

② 環境ビジネスの現状と今後の課題

③ エコプロダクツ

- ④ 環境流通経済・関連法規
- ⑤ 環境マーケティングの国際情勢
(環境会計学、環境流通経済論、環境ビジネス論、環境商品評価論 など)

IV群 「環境調査」関連分野

フィールド調査やデータ整理、分析および情報発信の体験を通して、知識として学んだことと現実との差異を理解する。

環境情報分析演習

環境に関するマスメディアを介して提供される情報やネット情報を収集、整理分析し、情報の本質を理解する。

- ① 情報発信技術の基礎知識
- ② 空間情報、GIS コンテンツ、画像情報の特性
- ③ 環境情報事例研究
- ④ 情報の収集、整理、加工
- ⑤ 情報発信

(環境シミュレーション演習、環境情報調査演習、環境調査演習、環境経営診断演習、GIS演習 など)

社会調査法演習

環境問題を定量的・定性的に分析するための社会調査法の理論を学び、演習を通じて実践的能力を身につける。

- ① 社会調査法の理論
- ② 社会調査法の歴史
- ③ 質問紙法・面接調査法
- ④ 調査データの分析・解析方法
- ⑤ 社会調査演習・フィールドワーク

(地域社会論及び演習、環境コミュニケーション論及び演習、地域環境調査論及び演習、社会調査法、アンケート調査法 など)

生活環境調査演習

人の生活の基本となる衣食住に直接関わる環境問題の調査分析を通して、地球規模の環境問題へと視野を広げることのできる力を養う。

- ① 生活環境問題の現状調査
- ② 生活環境問題の要素の抽出
- ③ 衣食住それぞれの環境の視点からの分析
- ④ 環境を支配するスケール
- ⑤ ローカルな問題からグローバルな問題へ

(食環境調査演習、衣環境調査演習、住環境調査演習、ビオトープ演習 など)